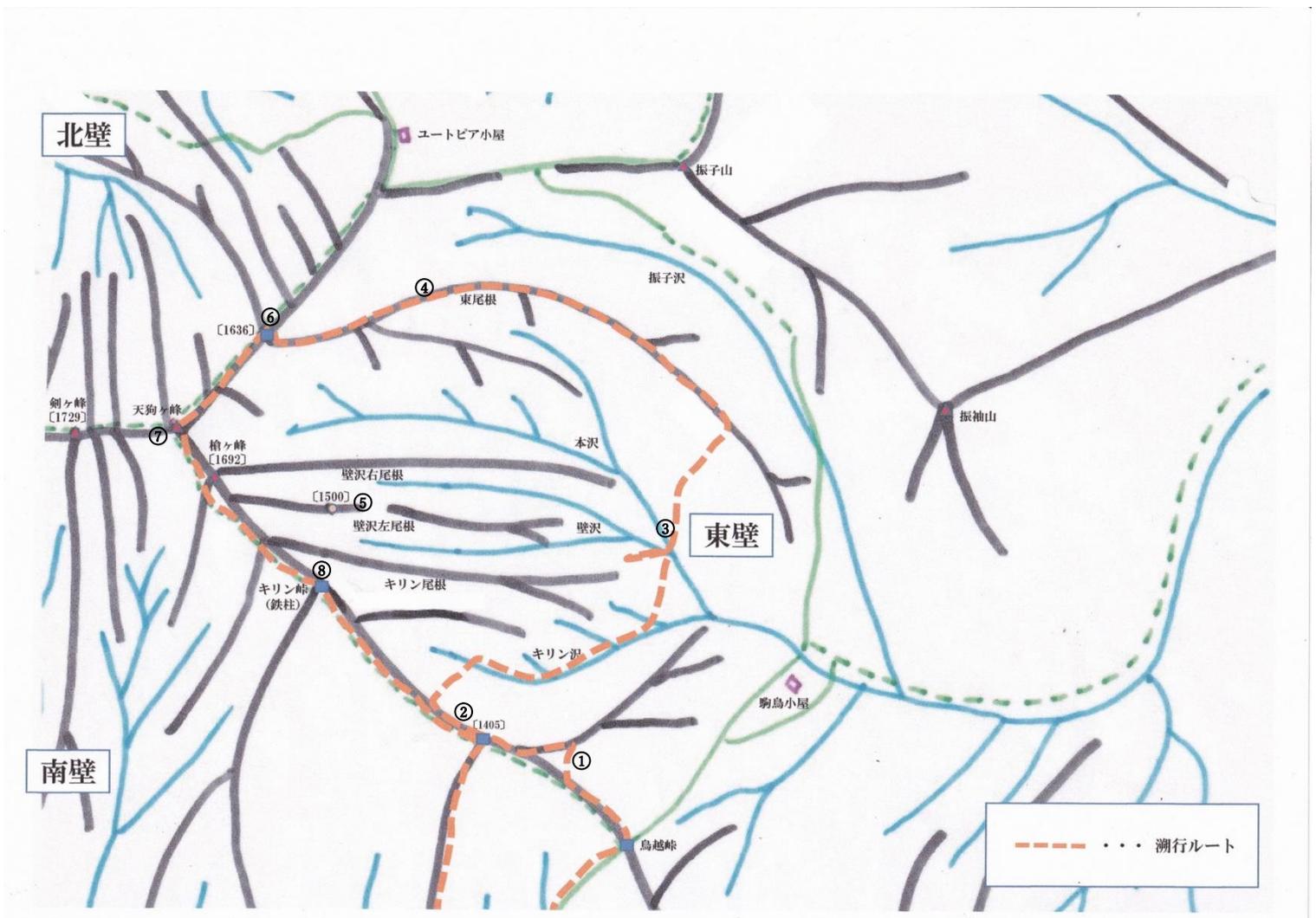


伯耆大山 東壁 東尾根

日時：令和3年〔2021年〕2月27日～28日

参加者：中山・中野・岡村繁雄

コース：奥大山スキー場〔5:30〕→環状道路登山口→鳥越峠〔7:55〕→1405mピーク
→1405mピーク先の鞍部〔8:48〕→キリン沢→壁沢右尾根の末端〔9:48〕→東尾根
→1636mピーク⑥〔12:25〕→天狗ヶ峰⑦〔13:00〕→槍ヶ峰〔13:13〕
→キリン峠（鉄柱）⑧〔13:43〕→1405mピーク〔14:25〕（尾根伝い下山）
→奥大山スキー場そばの砂防堤右岸環状道路〔15:43〕→奥大山スキー場〔15:50〕



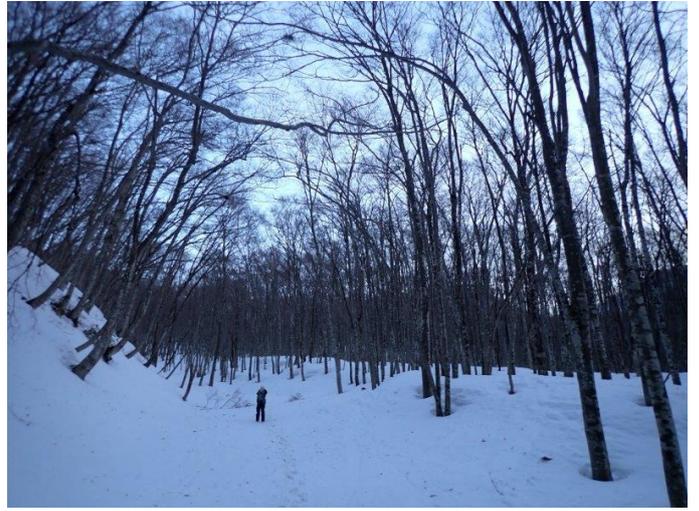
今回の溯行図の作成に当たり、大山遭難防止協会の「大山東壁概念図〔2018.12.26〕」を参考にし、大山における沢や尾根の名称統一という目標に従い壁沢ダイレクト尾根の名称を壁沢左尾根と変更した。キリン峠については、1405mのピークではなく国土地理院で公開されている地図に記載されている鉄柱がある位置をキリン峠と記載している。

27日、奥大山スキー場の駐車場が閉鎖されていたため、やむを得ず路肩の雪の溶けた場所にテントを設営。

28日、早朝出発、環状道路登山口から鳥越峠までは、クラストして歩きやすく2時間30分弱で到着、ここでアイゼン装着。



スキー場の路肩でビバーク



鳥越峠への雪原



① 右側から回り込みぎみに 1405mのピークに向かう



② 1405mのピークより東壁（右の谷）を望む

この先のコルより右の谷（麒麟沢）に下降した。



麒麟沢を下降 この先、急傾斜となる



麒麟沢を下降



後方 麒麟沢 ゴルジュ



麒麟沢を下降、正面は壁沢右尾根の末端 右が本沢

当初は麒麟尾根経由で壁沢左尾根（ダイレクト尾根）を目指すつもりであったが、壁沢を進むと雪が緩んでかなり埋まり体力の消耗を強いられた。

ワカンを車に置いてきてしまったこともあり、無理をせず東尾根に急ぎょ転身することとした。



③ 東尾根の側壁を進む





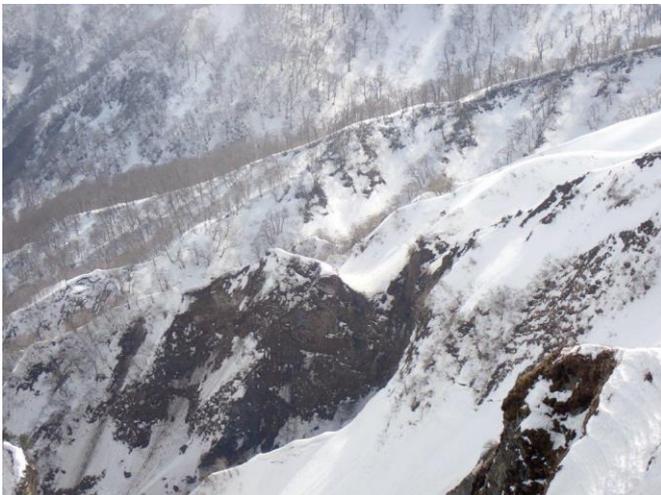
右の振り子沢をスキーマーが登っている



ピークを通過後、ナイフリッジ
気味の雪稜を慎重に下降



④ この先を超えると 1636mのピークは、目の前



⑤ 壁沢左尾根 (ダイレクト尾根) の崩壊部分 [ズーム]

右奥の岩峰が 1636mピーク
東尾根の終了点





前方 1636mピークを右に回り込むと縦走路に合流



⑥ 東尾根終了点、1636mピークより弓ヶ浜海岸の曲線がきれいに見えてやっと一息つくことができた



1636mピークより
天狗ヶ峰への登り
雪が溶けて崩壊著
しい縦走路



⑦ 天狗ヶ峰にて

天狗ヶ峰への縦走路は、雪がほとんど解けており足元はガラガラ、天狗ヶ峰まで、結局 8 時間弱の時間を要した。



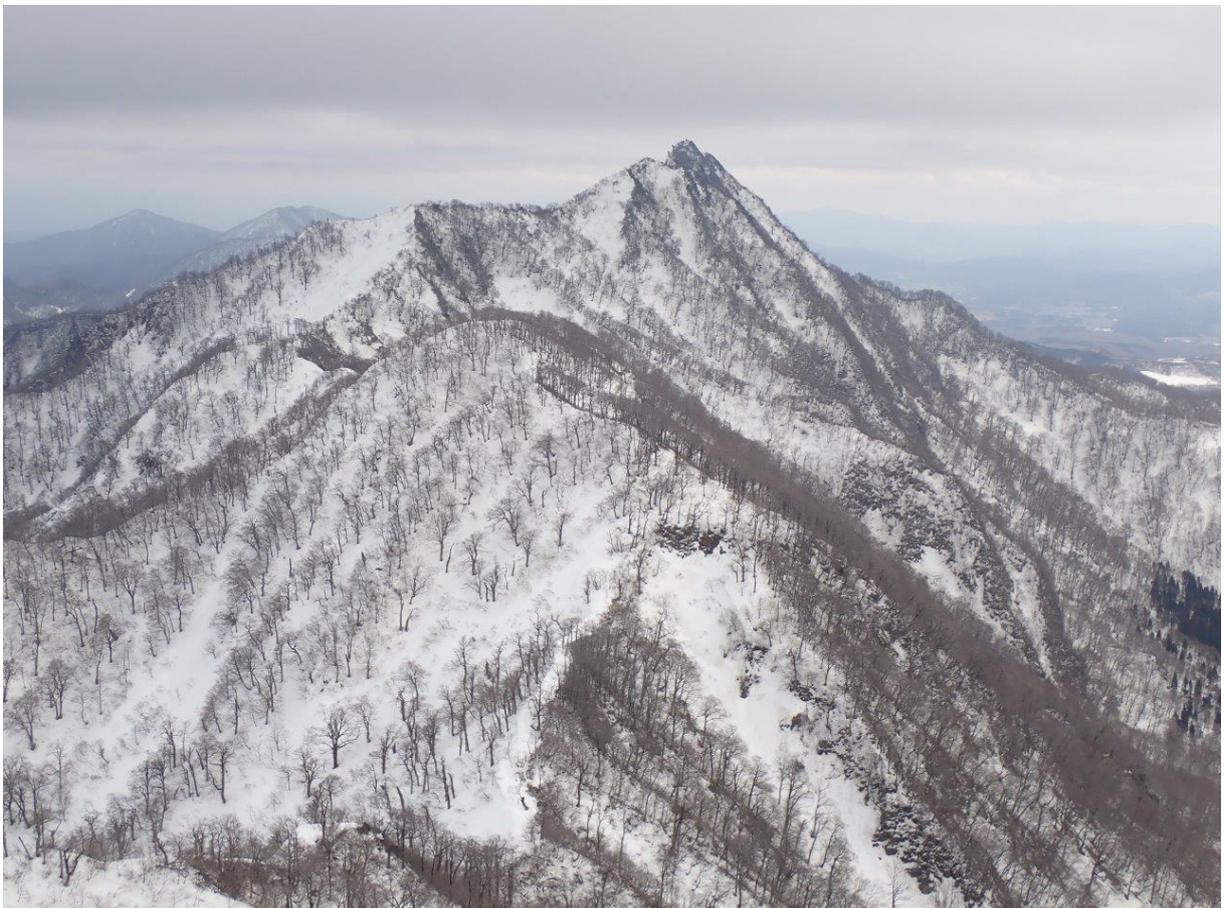
槍ヶ峰
〔1963m〕

下山は、槍ヶ峰の右側を回り込みながら下降、三ノ沢へ下降するトレースと別れコルを越えて麒麟峠を經由して 1405m のピークへ。





⑧ キリン峠
鉄柱の脇を通過



1405mピークより烏ヶ山を望む

1405m ピークから南側の尾根伝いにトレースをたどり下山。変わりづらいに登りもこのルートを使うと1405m ピークまでは、登りの工程を短縮できる。

その後、トレースをたどって行くと奥大山スキー場すくそばの砂防堤右岸の環状道路に出てほとんど環状道路歩くことなく奥大山スキー場に到着。

やや長めの行程であったが、充実した山行であった。全行程：10 時間 20 分